

令和4年度

公明党会派 都市行政調査報告書

期間 令和4年8月8日（月）～8月9日（火）

参加議員 大竹口 武光・藤澤 昌隆・今野 祐子・椎名 成

◆ 調査先 平塚市 保健センター
神奈川県平塚市東豊田448-3

◆ 調査内容 平塚市子育て世代包括支援センター
「ひらつかネウボラルームはぐくみ」の取り組みについて

公明党会派行政視察報告

日・時：令和4年8月8日（月） 13時半～15時半

視察先：平塚市子育て世代包括支援センター「ひらつかネウボラルームはぐくみ」

住 所：平塚市保健センター3階（平塚市東豊田448-3）

【平塚市の概要】

平塚市は、神奈川県湘南地域に位置する市であり、施行時特例市に指定されている。人口は約25.7万人で神奈川県のほぼ中央、相模川右岸（西側）に位置し、南は相模湾に面する。相模川から金目川までの間は市域北端部まで平野となっており、南部には市街地が広がる。県下では横浜・横須賀・川崎に次いで4番目、湘南地区および相模川より西の地域では初めて市となるなど、戦後早くから商工業都市として発展した。

主要産業としては、商工業・稲作・近郊農業（ほうれん草、ブロッコリー、イチゴ、バラなど）があげられる。

道路の整備が進んでおり、早くから国鉄（現：JR）との立体交差を推進しているなど特筆すべき点がある街であり、自動車通勤・通学する人も多い。都心にもほど近く、土地代も比較的安価である。市街地にはビルやマンションなどが立ち並び、ベッドタウンとしての面もあるが、郊外には緑も多い。東海道線を挟ん

で北側は宿場町が発展した街である。湘南ひらつか七夕まつりや湘南平、湘南ベルマーレのホームスタジアムがある事でも有名であり、若者の移住も増加しているとのことである。

【調査概要】



平塚市は「湘南で子育てするなら平塚市」というパンフレットを作るほど、子育て支援に力を入れており、本市と平塚市の子育て支援で、どのような違いがあるのかを調査した。

平塚市の子育て世代包括支援センター「ひらつかネウボラルームはぐくみ」は、平成 29 年 4 月に開設、保健センターの 3 階にあり、市民と行政をつなぐ大切な出会いの場であり、貴重な情報収集、情報提供の場となっている。妊娠期から出産、子育て期までの、切れ目のない支援を目的に、保健師、助産師、保育士、管理栄養士などの専門職員を配置し、相談や情報提供、支援へつなぐための窓口となっている。参考までに、ネウボラとは、フィンランドの母子支援制度のことで「助言の場」という意味があるということである。

「ひらつかネウボラルームはぐくみ」の主な業務は、産前産後ヘルパー派遣や妊産婦健診などの事務手続き、母子健康手帳の発行や面談などの市民サービス、妊娠期・周産期に関する周知・啓発・連絡、妊娠期教養支援連絡票の発行や受理などの連絡調整を主な業務としている。

ネウボラルームを設置して見えてきたこととして、母子手帳を配布するときに、全数面接を行うようになり、そこから見えてきたことが、約1割の妊婦がハイリスク妊婦であったことであった。ハイリスク妊婦とは、①若年・未婚・シングル・支援者不在が多い②妊娠・出産に対する構えがない、経済困窮や栄養問題がある③知的問題やメンタルヘルスが不調、などの問題を抱える妊婦のことである。ネウボラルームは、そういった諸問題の情報を共有し、総合的な対応をすることが可能となっている。その代表的な課題共有の方法としては、「平塚市妊娠・出産包括支援連携会議」や「はぐくみ連携会議」があり効果的に活用・運用がなされている。



ネウボラの特徴的な取り組みの一つに「ひらつかはぐくみ葉酸プロジェクト」がある。平塚市は、妊婦全数面接を通して妊婦の食生活に何らかの課題があることを把握した。市内では立て続けに、

「神経管閉鎖障害」である二分脊椎症の子供が生まれるなどの事例が起き、そういった状況を鑑みて、令和２年４月から、母子健康手帳交付時にオリジナルチラシとサプリをセットで提供、妊婦の理解度や生活環境、リスク要因にあわせた現実的指導をするなどの活動に展開している。

その他の取り組みとしては、妊婦歯科検診、新型コロナウイルス抗体検査キットの配布、母親父親教室、妊婦タクシー券の配布、オンライン育児相談の開催など行っており、こういった活動が功を奏し、若い世代から選ばれる平塚市になっていると思われる。

【質疑】

Q 医療的ケア児などへの対応は？

A 基本的にはネウボラでの対応ではないが、各担当の場所と連携をして寄り添った対応をしている。

Q 子どもの貧困に対する考え方は？

A 担当課と連携をして対応しており、市としても子ども食堂を開いており地域に寄り添った対応を心掛けている。

Q 低体重児、いわゆるリトルベビーなどへの対応はどのようになっているのか？

A 特設市として特別にリトルベビーに対する対応をしている状況はないが、各種専門職が充実していることがネウボラのメリットであり、引き続きリトルベビーに限らず寄り添った対応を継続していく考え。

Q 様々素晴らしい取り組みと理解した。今後も持続可能的に事業を続けていくための考えは？

A 引き続き人材確保もちろん大切。サービスの質の面では、今ある一ヵ所だ

けではなく、市役所においてもう一ヵ所増設することもいずれ考える必要があると考える。

【所感】

少子高齢化の進展、生産年齢人口の減少により、国内需要の減少による経済規模の縮小、労働力不足、我が国の投資先としての魅力低下による国際競争力の低下、医療・介護費の増大など社会保障制度の給付と負担のバランスの崩壊、財政の危機、基礎的自治体の担い手の減少など様々な社会的・経済的な課題が深刻化することとなる。人口減少という課題解決は、各自治体においても最重要課題と言っても過言ではない。そんな中平塚市の人口は増加、中でも注目すべきは子育てをしている世代が移住してきている点である。その一翼を担っているのが、子育て支援における充実した施策にある。

今回は、ネウボラの視察をさせて頂いたが、ネウボラの専門職の体制は他の自治体と比較しても稀有であり、非常に充実していると言える。誰しものが安心して子育てをしたいと考える。生まれてきた大切な命。子どもは地域の宝と言えよう。その宝を育てていくお母さん（お父さん）の負担を軽くすることは、現代の共稼ぎが主流となった時代では最重要課題と言っても良い。ハイリスクを持った妊婦を支える体制が充実している、ということだけを聞いても、若者世代には絶対

的な安心感が生まれるだろう。

また、平塚市は中学生までの医療費が無料である。そして、子育て世代が住みやすい環境が整っている。そういった状況をアピールする力にもたけている。単に子育て支援に力を入れているだけではなく、全体のバランスが整っており、それが人口の増加、移住者の増加につながっていると言える。

今回の平塚市での視察内容を生かして、今後帯広市において出来ることを模索し取り組んでいきたいと思う。

